

■ 2026年度 入試問題分析シート ■

東北大学

前期日程

科目

地学

総括

試験時間	2科目 150分	難易度(昨年比)	難化	昨年並	易化
満点(配点)	経済(理系)・理 600, 農 700 (いずれも2科目での配点)	分量(昨年比)	増加	昨年並	減少

〈総論〉

大問数5問は例年通りである。広範囲から出題された。
一昨年から論述量が多い傾向で、昨年と同じく合計53行にのぼった。論理力を要する設問が多い。
計算問題は少なめで、描図の設問はなかった。
地史の分野からの出題がなかった。

〈特記事項・トピックス〉

〈合格への学習対策〉

基礎を重視した問題でも構成されているから、それに従って、高校の課程で履修する基本的な事柄を学習すればよいであろう。
ただし、高得点を望むならば、物理や化学など他科目の学習も含め、日頃からいろいろな自然現象に関心を持ち、思考力と洞察力を高めておく必要がある。

設問ごとの分析

問題番号	出題形式	範囲	分野・テーマ	特徴(内容分析・解答上のポイント)	問題レベル
1	計算 論述	地学	天文分野, 連星と星の進化	天文分野の計算問題で、計算過程を要求されないのは、本学では珍しい。	標準
2	記述 論述 計算	地学 基礎 ・ 地学	固体地球分野, 地球の内部構造	問2は、個々の観測事実からわかることのみを記述する必要がある。	標準
3	記述 論述	地学 基礎 ・ 地学	天文分野, 太陽系の惑星	惑星について総合的に問うた問題である。	標準
4	論述 選択	地学 基礎 ・ 地学	大気海洋分野, 大気の循環	問4はやや細かな知識が問われた。	標準
5	記述 論述	地学 基礎 ・ 地学	地質地史分野 流速と粒径の関係	問3は探求活動にかかわる設問である。 問4は出題意図が汲みにくい設問である。	標準

「問題レベル」は、本大学・学部を志望している受験生の入試レベルを基準に、問題の難易度を5段階〔難・やや難・標準・やや易・易〕で判断しています。昨年対比ではありませんので、総括の難易度(昨年比)とは連動しません。